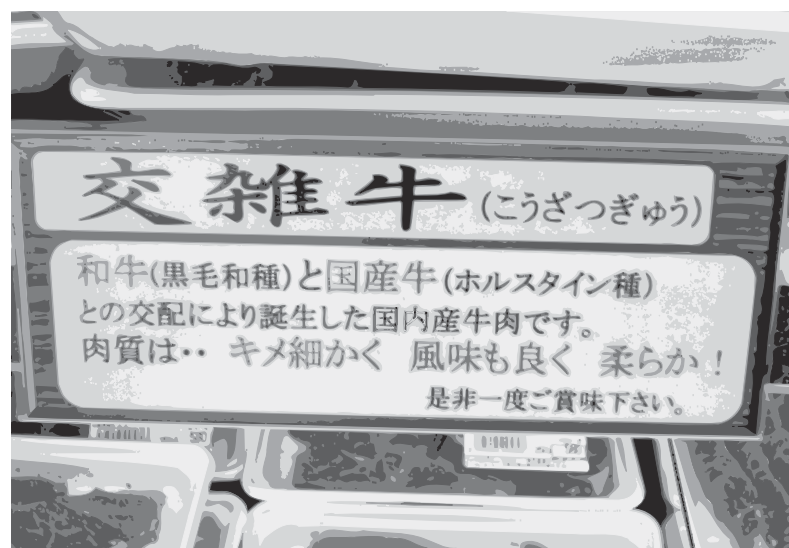


# 交雑牛

## について

## きく



# 「知らない」が7割超える 「購入しない」が5割にも

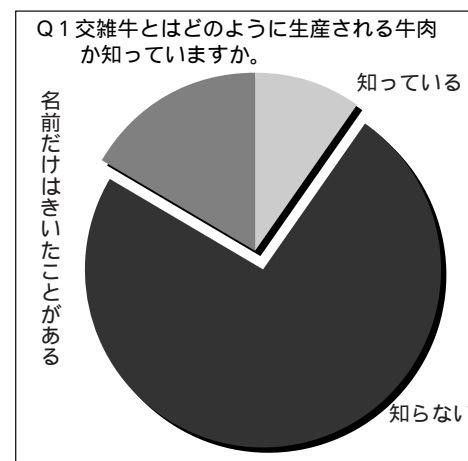
食肉業界に携わる者なら交雑牛という品種の知識は何らかはもっているはず。では一般の消費者はどうだろうか。交雑牛の販売は量販店、食肉専門店で広く行われている。消費者はどのような視点で交雑牛をみているのか。そこで今回の「ネットでアンケート」では交雑牛についてアンケートを行い、消費者の交雑牛に対する考えを探ってみた。果たして何割の人が交雑牛を知っているのか、また、交雑牛を購入する時の一番のポイントとなるのは？

アンケートの期間は9月13～22日。有効回答数は1,163件。平均年齢は37.3歳。男女の割合は男性52.3%、女性47.7%。都道府県の回答割合では東京都12.6%、大阪府と神奈川県が8.3%、愛知県が8.0%、兵庫県が6.4%の順となった。

Q1 交雑牛とはどのように生産される牛肉か知っていますか。

知っている	9.7%
知らない	73.7%
名前だけはきいたことがある	16.5%

「知らない」との回答が73.7%と圧倒的となった。「名前だけはきいたことがある」の16.5%を合わせると



消費者は少ないといえる。

男女別にこの回答をみると、やはりどちらも「知らない」との回答が7割を超えており、とくに女性は「知らない」との回答が75.7%となっており、「知っている」と回答があったのは1割にも満たない結果となった。

女性の年代別にこの数字をみると「29歳以下」「30

歳代」「40歳代」「50歳以上」では「知らない」との回答の割合が一番低かったのは「29歳以下」だが、それでも71.9%と7割を超える結果となった。逆に「知っている」との回答が一番高かったのも「29歳以下」で11.9%と1割を超える割合となっている。

買い物をする機会が多い女性の方が「知らない」との回答割合が高いというのは交雑牛の売り場での訴求が弱いということか。最近は交雑牛の販売が増えており、店頭に明示するケースも増加している。交雑牛の拡販を行いたいのなら、はっきりと交雑牛という意味合いを前面に押し出した売り場にすればいいのではないだろうか。

Q2 専門店、スーパーなどで初めて交雑牛肉をみかけた場合、購入するポイントとなるのは。

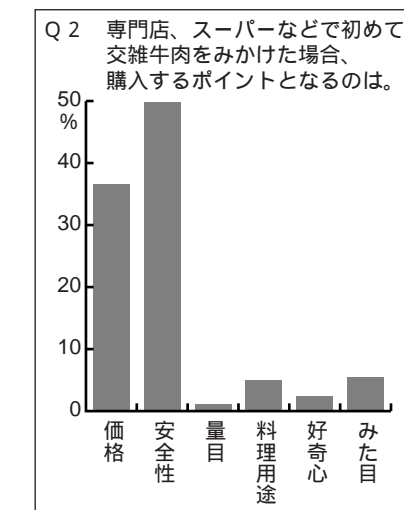
価格	36.5%
安全性	49.7%
量目	1.1%
料理用途	5.0%
好奇心	2.3%
見た目 (おいしそうだから)	5.5%

やはり「安全性」の割合が高く、49.7%とほぼ半数を占めている。次いで「価格」の36.5%となっており、この2つの項目で86.2%と大多数を占めている。男女別にみみるとやはり「安全性」と「価格」の割合が高く、とくに女性の回答では「安全性」が55.4%となっており、半数以上占めた。

年代別に女性の回答をみると、「29歳以下」では「安全性」の回答が48.1%と過半数を割ったのに対して、「30歳代」では58.8%、と10%以上高くなっている。「40歳代」では56.9%とやや低くなっているが、「50歳以上」になると60.6%とまた一段と高くなっている。「29歳以下」では「価格」の割合が38.9%と他の年代

の女性に比べてどれも10%以上高くなっている。

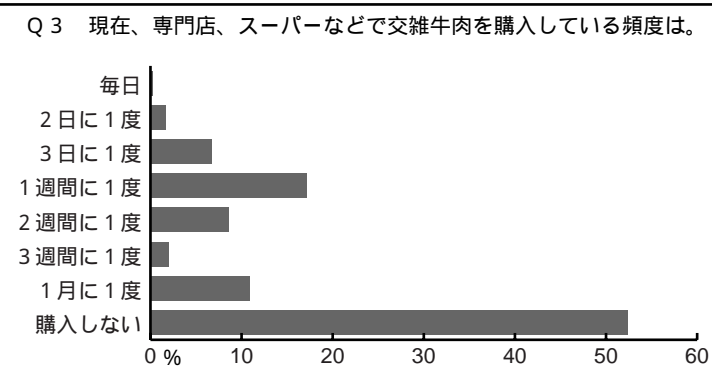
年代別の販促方法として「価格」と「安全性」の打ち出しをうまく使い分けていけば拡販の手段となりうるのではないだろうか。



**Q3 現在、専門店、スーパーなどで交雑牛肉を購入している頻度は。**

毎日.....	0.3%
2日に1度.....	1.7%
3日に1度.....	6.7%
1週間に1度.....	17.2%
2週間に1度.....	8.6%
3週間に1度.....	2.0%
1月に1度.....	10.9%
購入しない.....	52.4%

「購入しない」の割合が半数を占め、1度の17.2%となった。「1カ月に1度」の割合も高く10.9%と1割に近かった。



**Q4 交雑牛肉は和牛に比べて価格は安く、輸入牛肉に比べて価格は高くなっており、では、交雑牛肉のすき焼き用100gあたりの価格が上限いくらぐらいまでなら、ためらわずに買うことができますか。**

300円.....	38.2%
350円.....	19.3%
400円.....	22.7%
450円.....	4.6%
500円.....	9.2%
550円.....	0.4%
600円.....	0.9%
上限はない.....	4.5%

「300円」との回答が一番多く、42.2%となったが、「500円」の9.2%と1割近くを占めた。次いで「400円」の22.7%という数字も見逃せない。1割近

と半数を弱冠下回ったのに対し、女性の「購入しない」との回答は55.7%と平均値を上回っている。

女性の年代別にみると、「50歳以上」では「購入しない」という割合が78.6%と圧倒的に高い。その他の年代でも「購入しない」はすべて50%を上回っている。だが「40歳代」では「1週間に1度」の回答割合が23.3%と2割を超えており、また「30歳代」の「2週間に1度」は11.4%と女性の平均値よりも3%高い数字となっている。

この数字を悲観的にとらえることは、逆にはちゃんと安全性を告知し、品質などを認知してもらえれば、購入に踏み切り、家庭料理の定番材料として扱ってもらえる、潜在的な需要余地はまだ十分に残っていると見えるのではないだろうか。

い人が500円くらいなら、すき焼き用の肉にちゅうちょなく支払うことが出来るというのは、やはりすき焼きイコールご馳走という考えがあるからのだろうか。ちなみに500円までの回答の割合を全て合わせると94.2%となり、大多数を占める。

男女別にこの割合をみると、どちらもトップは「300円」となっており、似たような構成割合となっている。ただ、「500円」との回答の割合が男性の場合若干、高く10.3%と1割を超えている。また女性では「450円」の割合が高く、6.6%となっており、男性の倍以上。平均値が

らみてもかなり高い。

女性の年代別にみる。「29歳以下」では他の年代と比較すると「350円」が26.4%と高く、15~7%の差が出ており、また「400円」の割合は17.2%と低くなっている。「30歳代」では「300円」の割合が圧倒的に高く、42.2%と、平均値を大きく上回っている。「50歳代」では「350円」の割合が11.4%と低くなっており、「500円」の割合が11.4%と高くなっているのも、他の年代とは違っている。

このアンケートだけを考えると消費者がためらいなく交雑牛のすき焼き用を買える価格のボーダーラ

インは300~400円にあるといえる。ちなみアンケートにおけるこの価格帯の割合は全体で80.3%と8割を超え、女性のみをみても8割ちょうど数字となっている。平成14年度の国産（和牛以外）の部位別平均小売



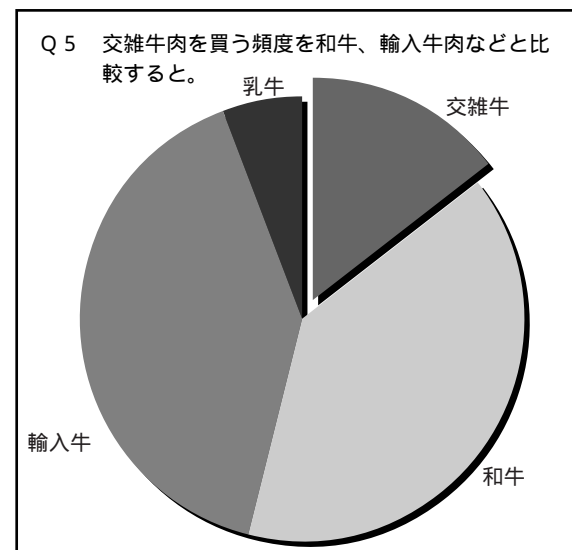
価格をみてもカタが313円(特売225円)、バラ286円(同212円)、モモ359円(同242円)となっており、交雑牛の拡販にはこの3部位の特売が有効であろう。

**Q5 交雑牛肉を買う頻度を和牛、輸入牛肉などと比較すると。**

交雑牛.....	14.5%
和牛.....	39.4%
輸入牛.....	40.3%
乳牛.....	5.8%

「和牛」と「輸入牛」の割合がきつ抗しており、ともに40%前後の数字となっている。「交雑牛」は14.5%

1割強の割合となったが、Q1の認知度の割合の低さを考えると健闘している数字ではないか。男女別にこの数字をみると女性の方が「和牛」が若干高く、「輸入牛」の割合が男性に比べて若干低くなっている。「交雑牛」に関してはどちらとも同じような割合である。



女性の年代別にみると、「交雑牛」の割合が「40歳代」と「50歳以上」を合わせた「40歳以上」では16.1%

高くなっている。「30歳代」では「交雑牛」の割合は13.8%と低く、逆に「和牛」の割合は43.8%と高くなっており、他の年代より交雑よりも和牛を買うという年代といえる。「50歳以上」の「和牛」の割合も50.9%と高い。しかし「交雑牛」を買うという割合も15.3%と高く、低いのは輸入牛肉の30%で、他の年代に比べて、輸入牛肉より和牛、交雑牛を買う年代であるといえるだろう。

もしこの割合の「交雑牛」20%台に上げるとするならば、どの牛品種から数字を割けばよいか。乳牛の割合は低すぎるから和牛、輸入牛のどちらかということになるが、この2つに比べて消費者の認知度の低さがネックになってくるだろう。やはり交雑牛がどのような牛肉なのか、いかに安全かをアピールするのが拡販への1歩となるだろう。